

1995年1月17日 阪神淡路大震災

「ぼくは、巨大な目覚まし時計に起こされたような気分だった。目が覚めてあわてて電気をつけようとすると、停電になり、水もガスも出なくなった。南の方でけむりが出ているようだった。すごく不安だった。」

「ガタガタガタ。地震がきた瞬間に、ぼくは起きました。目を開けると目の前はタンスでした。ぼくは横にころがって外を見たら真っ暗でした。チリンチリンチリン。サイレンみたいな音が、かすかだけど聞こえました。そして『だれか助けてえ。』と言う声がしました。ぼくは、近所のおばちゃんの声だとすぐにわかりました。もしかして、家がつぶれていたり、火事になっているかもしれないかと思っただけで助けに出ようと思いましたが、真っ暗でわからなかったの、どうしようもありませんでした。手であたりをさわっていくことはできたので、まず、かい中電灯をさがし出しましたが、外の人たちのほうが大変そうだったので、二階の窓からわたしました。危険だけど真っ暗な外へ出ようと思いましたが、…ドアを開けようとしたら、ドアが開きませんでした。窓から出ました。あたりはぐちゃぐちゃでした。」

(震災当時5年生 平成6年度摩耶小学校文集「くす」より)

当時は、学年ごとに年に一度、全校生が文集「くす」を作成していました。その中に多くの震災に関する作文がありました。午前5時46分、とてつもない揺れが摩耶小学校の周りも起こりました。

「六甲おろしの吹きすさぶ摩耶小学校は、当日2000名を越す避難住民の方々を迎え入れ、全く足の踏み場もない程、廊下・体育館・各教室は傷ついた人々で溢れていました。」

(当時の校長先生 「創立七十周年記念誌 摩耶70」(摩耶小学校同窓会発刊)より)

当時、学校の行事等をビデオに記録してくださっている地域の方がいらっしゃいました。その方が震災時の様子を撮影してくださった動画が学校に残されています。学校の周辺には、倒壊家屋も多くあり、摩耶商店街周辺の倒壊家屋も撮影されていました。地震後の比較的早い段階で、避難所を求めて学校に来られた人々のために、学校の鍵を持っていた地域の方が学校を開錠してくださいました。そのおかげで、たくさんの方が学校に避難することができました。学校に残っている当時の記録を見ると、午前10時で、585人、18日深夜0時で1513人の方が避難されていたようです。ちょうど書初め展を行っていた体育館や各教室は、避難の方でいっぱいになっていました。校舎だけではなく、運動場にも避難した人の車でいっぱいになり、最大で2300人の人が避難していました。

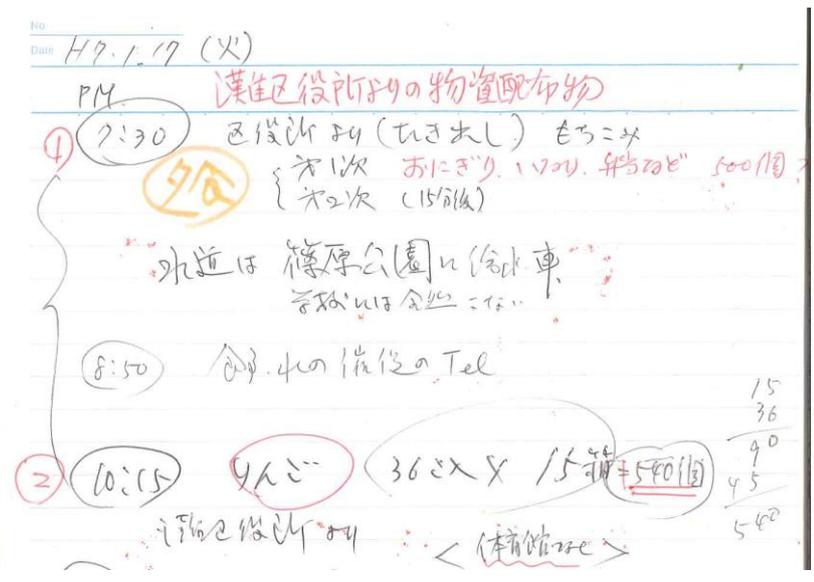
当時の教職員25名も被災(家屋全壊10名)していましたが、24時間体制で避難所運営に力を尽くしました。

在籍児童数455名中143名は、神戸市以外の町や村に縁故を頼って一時疎開、校区に残った312名中約50人の子供たちは、学校での避難所生活を余儀なくされていました。2月6日より、やっと空いた4階部分の教室で二部授業を開始しました。

被害の状況から、神戸の復興には莫大な時間がかかるのではないかと考えていましたが、全国各

地、世界各地からの支援により、神戸は復興していきました。そして震災を知らない世代が増え、震災のことは風化していつている現状ではないかと思ます。

忘れてはならないのは当時の2年生の男の子が震災で亡くなったことです。私たち神戸に住む人たち、そして被害の大きかった地域にある摩耶小学校の子供たちには、震災のことを忘れず今後も語り継いでいってほしいです。運動場の南側には亡くなった男の子のことを忘れないように桜が植えられました。これからもきれいな花が咲き続け、震災のことが、子供たちの心にも残り、語り継がれていきますように。



震災当時の学校の記録 救援物資・避難状況・学校の被害状況等が記録されている。



震災で亡くなった児童の追悼のために植えられた桜が開花した時の様子 (2024.4.2 撮影)